

# 令和6年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

6年

教科	指導上の課題の分析	授業改善の具体的な方策	評価（成果と課題）
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知識・技能の到達度は80%である。だが、自分の考えを文章で分かりやすく表現することに苦手意識をもっている児童が多い。</li> <li>○漢字の定着の到達度は60%～90%と差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常的に短い作文や感想など、自分の考えを文章で表現する機会を増やし、書くことへの抵抗感を減らしていく。</li> <li>○教科書の例文に沿って文の型を捉える活動を増やし、整った構成で文章を書けるようにする。</li> <li>○朝読書や休み時間の図書貸し出しなど、本に触れる時間を十分に確保して、文章中の漢字の使い方を知る機会を増やす。</li> <li>○学習した漢字を日常的に使うよう指導する。学習場面以外で作成する掲示物にも漢字を使うよう指導する。</li> </ul>	
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知識・技能の平均到達率が90%以上なのに対して、思考・判断・表現の平均到達率が85%前後である。獲得した知識や技能を根拠として、考えを説明したり新たな課題を発見したりすることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知識的な理解で終わらせず、「なぜ」「どうして」を問うことで、社会的現象の背景や人々の思いに気付くような展開にする。</li> <li>○社会的現象について、考えたことや判断したことを小グループで説明したり、それらを基に議論したりする学習活動を設定する。</li> </ul>	
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知識・技能の平均到達率は85%前後である。他教科に比べると、中間層の児童が多く、全体的な理解度の底上げが必要である。</li> <li>○思考・判断・表現の平均到達率は85%弱である。上位層の児童が少な</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の導入では、自然の事物・現象を提示する際に可能な範囲で実物を提示したり、デジタル教材を活用したりするなどして、児童の主体性を引き出し、単元を通して確実な知識や技能の習得を図るようにする。</li> <li>○自然の事物・現象から問題を見だし、一連の問題解決の力を身に付けられるように、毎回の学習を通して学習過程を意識した指導をする。</li> </ul>	

	く、自然の事物・現象について、問題を見いだしたり、より妥当な考えをつくり出したりといった問題解決の力を育成することが必要である。	○観察や実験の結果から、考察を書く場面では、「結果を正しく読み取れているか」「数値の読み取りから正しく解釈できているか」「自分たちの数少ない結果だけで判断していないか」等の視点をもたせて考えさせることで、より妥当な考えをつくり出す力を育成する。	
体育	○体育の学習に意欲的な児童は多いが、自分の学習課題を見だし、その解決に向けて思考し、判断する力は十分に身に付いていない。	○振り返りの時間に学習カードを活用して、自らの学びを振り返り、課題を見出すようにする。そこから、自己の課題に適した目標を立てさせ、次の学びにつなげることができるようにする。 ○「する、見る、知る、支える」など様々な視点から運動に親しむことができるように指導をしていく。	
総合的な学習の時間	○学習意欲は高いが、ある程度情報を収集すると、すぐにまとめの作業に入り、さらに探究しようとする児童が少ない。	○自分が設定したテーマについて多角的な視点で疑問を見出し、学習計画を立ててから情報を集めることができるようにする。 ○各自で調べたことを基に、話し合いを進めることで、新しい疑問や気づきを得られるようにする。そのために、単元の途中で話し合う時間を意図的に設定する。	